

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センター この街きっず学園 放課後等デイサービス事業		
○保護者評価実施期間	2025年11月21日		～ 2026年12月12日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	32名	(回答者数) 32名
○従業者評価実施期間	2025年11月21日		～ 2025年12月12日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	32名	(回答者数) 32名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月27日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童発達支援センター 通園との連携	支援アプローチの相談。療育・活動を参考にできる訓練士の助言をもらい支援に生かす。	勉強会の充実(事例検討等)
2	地域とのつながり	地域ボランティアの皆さんに定期的に読み聞かせをしていただいたり、地域の学校(合唱部や吹奏楽部)から演奏に来てもらって交流を図っている。地域のお祭りに参加。社会見学をしている。学生ボランティアの受け入れ。地域の学校との連携。	地域のイベントへ参加
3	法人内で幼児期から大人までの繋がりのある連携支援。	多角的な情報収集、色々な環境を経験している。幅広い障がい特性に対応。	他事業所への発信、事業所間での交流。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	人材育成、安定した支援の提供	女性の多い職場のため、結婚・出産等年齢期の職員が多くそういった人材の育成。	働きやすい環境づくり。人材育成研修・勉強会への参加。
2	それぞれの特性・発達・ライフステージに合わせた療育の提供。強度行動障がいが多いので個別的な対応が多い。	強度行動障がい支援の充実。ここに合わせたかんきょうせいびがむずかしい。	研修・関係機関との連携。
3	定員いっぱい、新しい利用者さんの希望が出て週1回の利用程度の受け入れしかできず、つながりのある療育が難しい。	圏域にある放課後等デイサービス、個別サポート(強度行動障がい等)ができる事業所が少ない。	圏域の中で、放課後等デイサービスが不足していることを連絡会や自立支援協議会で発信していく。